

関西電力幹部に 3 億 2 千万円もの金品が！

巨額で不透明な金が注ぎ込まれる 原発再稼働をやめさせよう

8年前、福島第一原発が大事故を起こし、その後、日本中の原発が止まりました。しかし、電力不足を起こすことはありませんでした。原発が止まったら停電が起きる、というそれまでの宣伝は、ウソだったのです。原発は必要ないと言う世間の批判も高まりました。これに対して、関西電力など大手電力会社は、原子力発電は安い、ということを中心に宣伝し、原発再稼働を押し進めてきました。

しかし、安全規制が強化され、再稼働のためには何千億円もの安全対策が必要になり、行き場のない廃棄物の処理などを考えれば、もはや、原子力発電は経済的に成り立たない発電方法だということも知られるようになりました。一方で、再生可能な自然エネルギーは、どんどんコストが安くなっています。

それでも原発再稼働にしがみついた大手電力会社は、莫大な資金を再稼働のために注ぎ込み続けています。そして、お金の力で再稼働に反対させないようにする地元対策の中で、生まれたのが関西電力の事件です。

**「預かっていただけ」と、
笑止千万な言い訳**

福島第一原発の事故が起きてからの7年間で、20人の関西電力幹部に、高浜町の元助役から、総額3億2000万もの金品が渡されていたことが、関西電力の工事を請け負っている会社への税務調査などで明らかになりました。一人で1億円を超える金品を受け取っていた幹部もいます。関西電力から水増しされた工事代金が支払われ、その中から、元助役を通じて、関電の幹部に金品が還流していたと考えるのが自然です。

関西電力は、これらの金品は「預かっていただけ」「返した」と、言い訳しています。しかし、受け取ってから何年も個人で保管し、税務調査が入ってから返している人が多いのですから、こんな言い訳が通用するはずがありません。50万円もの背広仕立券で背広を仕立ててしまった幹部はどうやって返したのでしょうか。

全造船関東地協労働組合

【2019年11月11日】

一人でも誰でも入れる労働組合 **よこはまシティユニオン**

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホームページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp>

代金を水増しできたことが問題

関西電力は、すでに亡くなっている元助役が悪い人だったことを強調していますが、工事を請け負った会社は、なぜ3億円もの資金を元助役に提供できたのでしょうか。適正な価格で工事を発注するのではなく、口利きや、付度で、工事代金が水増しできる仕組みだったことが問題なのです。電気料金とした集めたお金なので、痛みを感じないのですが、このような表に出ないお金で、一部の人が利益を得る一方で、事故があった

り、廃棄物の処理、放射能を浴びる労働で大多数の人が犠牲を強いられるのが原発なのです。

核廃棄物という、次の世代が背負いきれない負の遺産を残す原発をやめさせ、地方の活性化にも役立つ再生可能な自然エネルギーに切り替えていくために声を上げていきましょう。【組合員N】



■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起しましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は、電力会社を元請とした4〜8次の下請会社で稼働しています。3・11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は、2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴。第14回口頭弁論が12月4日（水）14時〜東京地裁103号法廷で行われます。多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

私たちは、東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月11日に街頭宣伝活動を続けて8年半が過ぎました。これからも何ができるのかを一緒に考えたいと思います。

「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！